学生战線

社会主义学生同盟 11/6

羽田斗争の成果を10.21斗争へ

10.21C.専門(文科系)ストを、成功させよう

(一)羽田斗争の成果は何か

10月8日早朝、K棒の嵐の中で斗われた全学連―反戦青年委員会の英雄的行動は、全世界の労仂者、学生に力強い連帯の励しとなっている。ヴェトコンの支持声明、サイゴン学生連盟、中共、ラテン、アメリカにそして西独の学生運動の指針にと、各国に反響をまきおこしている。まさしく、今や、国境を越えた斗いが羽田斗争によって実現されたのだ。

そして、この斗いを契機に、全世界の労仂者、人民が10、21斗争に於て、国境を越えた具体的連帯を更に拡大させようとしている。

これが、羽田斗争の成果の意义の才一点である。

才二点は、日帝の東南ア侵略に伴う、日帝の帝国主义国家化が必然化する秩序の暴力的再編の過程に、対決すべき運動の質は、もはや、暴力的対決しかない事を明らかにした点である。即ち、東大、明大、早大、砂川以来明らかにしてきた運動を更に、拡大と公然化したのである。

そして、現在、世界市場再分割戦への時代、勢力圏抗争への時代にあり、それ故、各帝国主义列強の軍事国家の再編にともなって起っている米黒人運動を頂点とする各後進国の労仂者、人民の斗い、そして後進国、農民、労仂者の斗いが、このような反羽田斗争の現出をもって、はじめて、強い、国境を越えた具体的な斗いが形成されるのである。

(二)反革命は急ピッチに進んでいる。

まさしく、羽田斗争に於る反戦青年委員会―全学連の斗いがその様な斗いであったからこそ、日帝の野望を暴露し、日帝の权力の中枢を根底から揺さぶる斗いであったならこそ、日帝の支配权力は学生一人を殺してまでその強烈な弾圧のみならず、更にその様な斗いを形成するであろう一切の芽をつんでしまうべく、弾圧に本格的に乗り出している。

それは、今、次の様に、進展している。

まず、学生の死を、〝学生が轢き殺した〟というデマ攻勢から〝学生の域を超えた行動〟、〝正常な〟〝秩序〟というイデオロギー攻勢をもって、市民主义者との分断を策し、更に、そのイデオロギーが東南ア侵略への擬似国際主义へと体系化されつつある。

そして、具体的には、デマとデッチ上げを持って、殺人事件、刑事事件として、組織の壊滅を追求し、〝秩序を〟〝正常を〟のイデオロギー攻勢の具体化は、破防法、大管法の適用へ、更に、大学の自主規制へと着々と国家体制を警備組織化させ、日帝の帝国主义国家化へ一路邁進しているのだ。

我々が、これまで指摘してきた、自民族の帝国主义軍隊化を軸とした帝国主义国家化への道として、着々と進行しつつある事を公然とさせている。

(三)危機の突破の道は何か

この様な权力・支配者階級の急ピッチな攻撃に何を対置しなければならないのか。

日共の様に赤旗まつりを行い、ブルジョアジーの

11/6